

# 中国における国際理解教育の現状と 授業開発の可能性に関する研究

LI Han

グローバル化の発展と経済の高度発展期にある中国は、グローバル市場に巻き込まれ、国際理解教育が「国際化対策」という使命を帯びて海外から導入されはじめている。現在では、多文化的状況がさらに広まり、人権、平和、貧困、環境など地球的な課題も地域や学校で意識されるようになってきた。このような時代背景の下で、中国でも国際理解教育が強調され、学校教育における国際理解教育の推進と関連研究が一層重要視されるようになってきている。こうした中で、中国の北京、上海、浙江省などの地域の小中学校では国際理解教育に盛んに取り組んでおり、一定の成果も上げている。しかし、中国における国際理解教育は、全国的な課題となっているにもかかわらず、関連研究と実践のほとんどは、北京市、上海市、その他の沿海地域が対象となっており、その以外の地域、例えば、内陸部や西南地域の四川省についてはあまり触れていない。広域の中国にあって、ある地域に偏って国際理解教育の研究が進んでいることは、今後の中国の国際理解教育の全国的普及という視点から望ましいと言えないだろう。また、学校現場においても、北京市、上海市を始め、各地域の国際理解教育は英語を中心として、グローバル人材を求め、国際化対応に偏る傾向が見られ、とくに、言語教育(特に外国語教育)に偏っている傾向も改善していく必要もある。中国において、教育の国際化の文脈から導入された国際理解教育は、まだ歴史が浅く、学会等も未整備であり、理論的な研究が不十分でもある。今後は、表面的な実践から、グローバル時代に世界・地球と共生する人を育てる内容に方向を転換すべきであろう。

このような課題意識から、本稿では、中国における国際理解教育の全体像を整理したうえで、西南地域にある四川省における国際理解教育の現状の課題を明らかにしていく。また、中国・四川省の小学校で社会科的な教科である「品德与生活」「品德与社会」の教科書の分析を通して、四川省の国際理解教育の特徴を明らかにしていきたい。最後に、本稿での考察と分析を踏まえ、学校現場における国際理解教育の授業開発について理論的に検討する。こうした目的の下に

行った各章の考察の要約は以下の通りである。

第1章では、中国における国際理解教育に関する理論的な、また全国的な傾向について検討した。最初に中国における国際理解教育の全国的な動向を整理した。国際理解教育の定義、導入の背景、発展の経緯を説明した上、中国における国際理解教育の特徴と課題を検討した。その中で、「異己」理解・共生という新しいプロジェクトの必要性、内容、意義についても紹介した。さらに、内陸西南部に位置する四川省の国際理解教育の実践の状況と成果を考察した。

第2章では、小学校教科書分析を通して、中国における国際理解教育の実際について考察した。中国は、国土も広く、発展レベルも不均衡でグローバル化への取り組みも地域差が大きい。そのため、国際理解教育に対する解釈やその取り組みももちろん多様である。ここでは、中国の西南部に属する四川省を中心として、学校現場(特に小学校)における国際理解教育の現状を整理した。具体的には、小学校における教育課程の構成、小学校における国際理解教育カリキュラムの総目標・学年目標の考察、教科「品德と生活」「品德と社会」の具体的目標、教科書の内容構成、国際理解教育関連の内容をまとめて考察した。それらを踏まえて、四川省における国際理解教育の課題を検討した。

第3章では、中国において求められる国際理解教育に関する授業開発に関する理論的検討を行った。主に教材開発、カリキュラム開発、授業モデル開発という三つについて検討した。教材開発では、中国における国際理解教育の教材に関する分類をふまえながら、教材内容のあり方と教師の資質向上という二つの視点から改善方法を検討した。カリキュラム開発では、中国における国際理解教育の目標と内容構成、類型と評価方法を検討した上で、研究者と実践者の共同研究、内容からの見直し、評価方法の導入という視点から改善方法を検討した。さらに、授業モデル開発では、社会科に新しいプロジェクト「異己」理解・共生の導入を中心とした授業モデルを検討した。

以上のように、本稿では、現地で収集した文献資料に基づき、国際理解教育視点から見る、中国における国際理解教育の全体像と四川省における教育の発展現状を考察した。小学校の社会科に関する教材を分析し、学校現場における国際理解教育のあり方と授業開発についても理論的検討した。